

**豊中市教育委員会の権限に属する事務の点検及び評価委員会
令和6年度（2024年度） 第1回会議 議事要旨**

日時	令和6年（2024年）6月26日（水）18時45分～20時25分
場所	豊中市役所第二庁舎3階大会議室
会議形式	集合及びWeb会議
出席委員	（集合）服部委員（委員長）、原委員（委員長職務代理者） （WEB）宮村委員
事務局	岩元教育長 長坂事務局長、中尾教育政策監、堤理事 ほか
傍聴	0人
会議録	下記のとおり

開 会

教育長より挨拶

当委員会について

事務局から資料に基づき説明及び委員と事務局の紹介

【資料1】豊中市教育委員会の権限に属する事務の点検及び評価委員会規則・委員名簿

成 立 要 件 の 確 認

事務局

- ・豊中市教育委員会の権限に属する事務の点検及び評価委員会規則第6条第2項の規定により、委員の過半数の出席を必要とするが、委員総数3人全員の出席をいただいているので、成立要件を満たしている。

当委員会 の 公 開 に つ い て

事務局から資料に基づき説明

- 【資料2】審議会等の会議の公開の実施に関する要領
- ・当委員会を公開とする。

案件1 諮問について

教育委員会の代表者である教育長より、当委員会の委員長に手交した。

案件2 審議について

事務局から資料に基づき説明

用いた資料

- ・別添 「豊中市教育委員会の権限に属する事務の管理および執行の状況の点検及び評価報告書
令和5年度（2023年度）実施分」

委員長

- ・質問・意見等はないか。

報告書全体・評価結果について

2. 点検及び評価の結果

委員

- ・昨年と今年の点検結果早見表について、これは参考ではないので、前に出して全体を概括できるような形にするか、参考はなくした方がいいのではないか。

3. 令和5年度（2023年度）教育行政方針に掲げた取組みについて

基本方向（1）保育や幼児教育の充実を進めます。「①保育・幼児教育の充実」「②保育や幼児教育の質の確保・向上」「③幼児教育から小学校生活への円滑な移行の推進」

委員

- ・「①保育・幼児教育の充実」「②保育や幼児教育の質の確保・向上」「③幼児教育から小学校生活への円滑な移行の推進」について、市長部局への移管があるから評価しないのではなく、国の政策として教育委員会で点検評価しなければならないのではないか。

基本方向（2）子どもたちの学びを高める環境づくりを進めます。

「④確かな学力と体力の向上」

委員

- ・学校教育課の【今後】の項目についてもっと数値目標など具体的な標記をしてほしい。

事務局

- ・【今後】にも数値を記載し、わかりやすい記述に修正する。

委員

- ・活動指導員16人配置で十分足りているのか。また、これから部活動指導員を増やしていく予定はあるのか。部活動について、運動部と文化部それぞれの地域移行に向けてどのように準備するのか。

事務局

- ・17校に対して各1人で、配置を予定していたが、1校のみ学校の希望した部活動と、部活動指導員のマッチングがうまくいかず、16人となった。学校からは、教職員の働き方改革との関連もあり、部活動指導員はより多く配置をという希望がある。今年度は全校で各2人ずつの配置を進めている。部活

動指導協力員も、各校に配置をして、グループ活動を充実させていく。運動部がほとんどであるが、今年度は文化部への配置を広げている状況である。【今後】に、拡充内容を記載する。

委員

- ・タブレットに関して、端末活用の指針やセイマーモデルを策定して推進していく中で、定着や学びの要素に現れるようにするには、どうするのか。タブレットだけを取り出す指標は難しいと思うが、今後どうやって確認していくのか。

事務局

- ・セイマーモデルを策定した理由は、タブレットを用いた授業が本当により良いものになっているかを考えるためである。そのため、先生主導ではなく子ども自身がアプリケーションを選んで自己決定するなど、子どもの興味関心に基づく、課題解決学習などに取り組む部分等を、指標として学校に示している。小学校高学年ならば、子どもが主体的にツールを使って編集したり、発表画面を設定するなどの具体例を示すことで、授業改善になることが大きい。最終的には、子ども自身がICTへの関わりも含めて主体的に学習を行う効果を測っていくべきと考えている。そのため、自分で学習に向かっているかどうか、ICTを効果的に使って楽しいと思ったかどうかなどのアンケートを各学校で行っている。

委員

- ・人事交流を活用した優秀な人材の確保の取り組みについて、具体的にどんな取り組みをして、どんな成果があったのか。

事務局

- ・一般教員とともに、学校管理職の交流を行っていることや、具体的な数値などを記載する。

委員

- ・「自分で計画を立てて勉強している」と答える児童・生徒の割合の指標について、数値が落ちているが、わかるもの（理由）があれば教えてほしい

事務局

- ・理由を分析したうえで内容を【今後】などへの反映を検討する。

委員

- ・学力向上自主企画事業について、どういった課題があると認識して、それに対してどう対応したか具体的に記載する方がよいかと考える。

事務局

- ・課題は何か、どのような支援を行ったのか具体的に記載する。

委員

- ・中学校少人数学級事業について、教職員課と学校教育課に分けているのはそれぞれの課に違いはある

のか。

事務局

- ・違いはないため、合計した表記に修正する。

「⑤豊かな人間性の育成」

委員

- ・学校図書館補助職員の説明がほしい。

委員

- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」「人の役に立つ人間になりたい」と回答する児童・生徒の割合が大きく上昇しているので、なぜかをしっかり分析して【成果】に書き込むべき。

事務局

- ・理由を分析したうえで内容を【今後】などへの反映を検討する。

「⑧いじめ防止と不登校支援の充実」

委員

- ・別室登校支援員の説明も含め不登校支援について、取組み内容を詳しく聞きたい。

事務局

- ・不登校の人数について分析したところ、中学1年生で大きく伸びているのは、学級担任制であった小学校から教科担任制である中学校に入学したことと考えられる。そのため、1つの場所で同じ職員がいつも対応でき、生徒が安心して過ごせる環境が必要なのではないかと考え、部屋の確保等ができていない学校について、別室登校支援員を派遣しているものである。

委員

- ・数字が確定していないところでいつまでに数値が確定するのか教えてほしい。

事務局

- ・いじめの解消条件は、2つ条件があり、いじめの行為が止んでいる状態が3ヶ月継続していることと、被害者が心身の苦痛を受けていないということである。いじめについて行為が止んでいる状態が3ヶ月継続していることを確認した上でその解消率を確定するため現在調査中であり、7月中旬には数値が確定する予定である。

委員

- ・いじめの件数について、庄内さくら学園（義務教育学校）は、どのように記載しているのか。

事務局

- ・義務教育学校は現状1校であり、数値を明らかにすると学校が特定されてしまうため、前期課程、後期課程それぞれで数字数値を把握し、小学校・中学校の中に含めて記載している。

委員

- ・不登校の特例校を作ることについて、どういう進捗になっているのか。また、どこかにそれを記載しなくてよいのかどうか。

事務局

- ・進捗について、令和5年度は開設の可能性や財政支援等の調査研究検討を始めた。検討内容の報告として、基本構想（素案）の策定を提出し、今年度はパブリックコメント実施などを行い、市民等に公表する予定である。成果については、点検評価報告書の5ページの内容等を付け加え修正する。

委員

- ・ステップルームスタッフ（別室登校支援員）について、【成果】では新規不登校生徒の増加の抑制に繋がりましたとあるが、指標を見ると、出現率は下がっていないので、記載内容を変更した方がよいのでは。

事務局

- ・ステップルームスタッフを配置した学校では、他の学校に比べて新規の不登校が抑えられた状況があるが、指標は全体の結果を記載しているものなので、ズレが生じている。本文に説明を加える。

委員

- ・【今後】に小学校の水泳事業について、民間プール施設への委託を取り組むと記載があるが、これは教員が指導しないということか。

事務局

- ・今年度から2校で、民間のプール事業者のプール施設を活用した指導の委託を開始した。事業者のスイミングコーチからの指導を受けながら、学校の教員が指導し、水泳授業を行っている。児童・生徒への評価については、教職員が行う。該当教職員からは、専門的なスイミングのコーチの指導を間近で、見て学べるということで、好評な感想を聞いている。

委員

- ・WAKUWAKUプランについて教育内容の活性化が大きな特徴だと思うので、サポート内容などの説明も成果としてあってもいいのではないか。併せて特色についても教えてほしい。

事務局

- ・小学校2校中学校2校なので、具体的な校名は出さずに、それぞれ成果が上がったことを記載していく。

基本方向（3）子どもたちの学びを高める環境づくりを進めます。

「⑩活動や交流ができる機会の充実」

委員

- ・P48 の地域教育活動と P56 の地域学校協働活動はどのような使い分けをしているのか。

「⑫子どもたちの居場所づくり」

委員

- ・【成果】に校門開放に向けて、調整及び準備を進めたと記載があるが、具体的な調整や準備について知りたい。

事務局

- ・校門開放事業は、4月8日の始業式から制度を開始している。調整については、学校現場の調整、民間事業者に委託に関する仕様書をはじめ制度構築に関して行った。準備等も含めて追記する。

委員

- ・学校を使った居場所づくりの余裕教室の数は足りているのか、教室の環境の見通しなどを教えてほしい。

事務局

- ・子育てしやすさNo.1の取り組みの1つとして、段階的に放課後こどもクラブ室の確保を進めているところである。クラブ専用室としての確保が難しい場合は、音楽室等をクラブ室として併用するなどの運用により、居場所の確保を行っている。

基本方向（4）子どもたちを育む学校・家庭・地域の連携・協働をめざします。

「⑭学校と家庭、地域をつなぐ仕組みづくりの推進」

委員

- ・サポート会議の内容を教えてほしい。

事務局

- ・サポート会議は、精神科医、心理士、精神保健福祉士、弁護士の方々に、学校において児童生徒や保護者への対応などで課題がある際に相談し、アドバイスをいただく会議である。

委員

- ・サポート会議の指標として重要なのは、「サポート会議における相談解決率」である。「サポート会議延べ相談件数」や「学校問題解決支援事業延べ対応件数」は、問題が発生しているのか否かの話なので、サポート会議自体の評価に果たしてなりうるのか整理してほしい。

事務局

- ・「サポート会議延べ相談件数」は指標を取り下げる。「学校問題解決支援事業延べ対応件数」について、学校問題解決支援事業は、他に法律相談や、サポート派遣（現場でサポート会議の委員が相談に

のる) などを実施しており、解決までは後追いができていないので、活動指標ではあるが、指標に残す。

委員

- ・地域学校協働本部整備率 100%とあるが、本部はどのようなものか。明確に本部が置かれているのであれば、コミュニティスクールとのリンクも必要になってくるのではないか。

事務局

- ・本部の実態としては、活動実態を行っているところを、本部として置き換えている。今後コミュニティスクール連携等は、学校支援コーディネーターを中心に、進めていき、地域と学校と協働しながら、地域活動の推進に努める。

「⑮コミュニティスクールの導入」

委員

- ・導入ができたあとの指標は、どうするのか。

事務局

- ・検討課題とする。

「⑰地域での子育て環境づくり」

委員

- ・評価についてC+のままでいいかと思うが、あえてBにする理由はなにか。

事務局

- ・庄内公民館をリニューアルして、令和5年度から本格的に他の子育て支援施設等との連携の場が整理されて、活動が進んだところを評価した。

基本方向（5）生涯を通じた学びの機会の充実と成果を活かせる場や機会づくりをすすめます。

「⑱学びの支援と学習機会の充実」

委員

- ・読書バリアフリーについて、指標はどれを見たらいいのか、デジタル図書館のログイン件数ということになるのか、その辺り教えてほしい。

事務局

- ・読書のバリアフリーについてはログインの数で表現した。当初貸出冊数等で悩んだが、今回デジタル図書館を入れたということで、試し読み等もできるため、冊数よりもログインという形で示した方がいいということでログイン件数にした。

委員

- ・社会教育士について市民に対して働きかけを行うなかで、手応え等の様子を教えてほしい。

事務局

- ・昨年は1名が講習を受け、社会教育士の称号取得の成果が出ている。これからも情報発信を続けながら、取得者の増加に取り組む。また、社会教育士と、こういった連携をしていけるか考えていく。

「⑱地域における学習活動などの推進」

委員

- ・公民分館のことがいろいろ書いているが、もしこの中に、地域学校協働活動のような言葉も含まれているのであればそのことも成果として記載があってもいいのでは。

委員

- ・評価について、C+のままでいいかなと思うが、あえてBにする理由はなにか。

事務局

- ・コロナ禍前まで一定の部分まで活動が戻ってきた点について、実績が顕著に表れているということで評価したが、整理のうえ検討する。

「⑳（仮称）中央図書館を核とした生涯学習推進拠点の整備」

委員

- ・豊中駅図書サービスポイントについて、何ができる場所か補足いただければありがたい。

事務局

- ・豊中駅にインターネットなどで予約した資料の受け取りと返却だけができる機能に特化した場所を、豊中駅に設置した。説明について追記する。

案件3 その他

委員長

- ・案件3について事務局より何かあるか。

事務局

- ・次回は7月19日（金）9時30分から11時30分の予定。

委員長

- ・他に質問、意見等はないか。
- ・なければ本日の会議を終了する。

閉 会